



## 新し時代を切り拓く

校長 早川 和男

新年、あけましておめでとうございます。

2020年が幕を開けました。皆様方には、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。今年の干支は「子(ネズミ)」ですが、子年は十二支のうち最初の干支であり、十二支の新たなサイクルがスタートする年にあたります。植物に例えると、新しい生命が種子の中にきざし始める時期で、未来への大きな可能性を感じさせます。また、ねずみは「ねずみ算」という言葉があるほど子どもをたくさん産むことから「繁栄の象徴」と言われています。経済の場面には「子は繁盛、丑はつまづき、寅千里を走り、卯跳ねる。(後略)」という干支にちなんだ格言があって、景気が良くなる傾向にあると言われているそうです。今年には日本にとって節目の年となり、東京オリンピック・パラリンピックがあるので、経済効果が期待できるのかなと考えられなくもなさそうです。本校としても、せっかく身近な場所で行われるオリンピック・パラリンピックですから、関連した取組を進めていこうと考えています。



さて、このお正月は「令和」の時代になって最初のお正月でしたが、去年の4月まで30年余り続いた「平成」の時代を振り返ると、社会の変化は実に目まぐるしいものがありました。平成元年には、初めて消費税(3%)が導入され、海外ではベルリンの壁が崩壊し、米ソ冷戦終結が宣言されました。その頃は学校にはまだパソコンがありませんでした。平成の30年の間に、パソコン、携帯電話、インターネットなどの情報通信機器が急激に普及し、特に、直近の10年の間にスマートフォンは加速度的に普及してきています。子どもたちが社会人として活躍する今後の社会は、情報通信技術がいっそう飛躍的に発展するとともに、グローバル化の大きな変化の中に身を置いていくことになります。様々な課題を主体的に受け止め、創意工夫して解決していくことが求められます。そう考えると、学校では思考力や表現力や判断力も含めた確かな学力、コミュニケーション能力や豊かな人間性、日々挑戦し続ける健康や体力、総合的なクオリティの高い人間力など様々な力を培うことが求められます。これからの時代を切り拓いていく人材を育成していくためにも、学校と家庭、地域が協力することの重要性はますます高まってきます。子どもたち一人一人のよさや可能性をさらに伸ばすことができるように、引き続き指導の充実に努めていきたいと思ひます。

ところで、新年を迎えて子どもたちもそれぞれに目標を立てたことと思ひます。勉強に関すること、運動に関すること、生活に関することなど、いろいろあると思ひますが、新しい年は誰にとっても新たな取組への意欲と期待を高めてくれますので、やる気に満ちたものが多いと思ひます。そこで、3学期の始業式で子どもたちに下記のような話をしました。

- 目標に向かって計画を立て、創意工夫をしながら継続して粘り強く取り組むこと。
- 気持ちのよいあいさつを交わし、約束やきまりを守ってみんなが気持ちよく楽しい1日を過ごせるようにすること。
- 思いやりの心をもって友達とやさしく接し、助け合って互いに協力していくこと。

子どもたちが、社会の中で自分らしく豊かに生きていくには、様々な知識や技能、考え方を身に付けること、そのために常に目標をもって計画を立て、主体的に学んでいく姿勢を身につける努力をすることが大切です。また、学校での集団生活を通してあいさつや決まりを守るなどの基本的な生活習慣を身に付け、優しい心もち、友達と仲良く協力し合って解決していく力をしっかりとつけさせていきたいと思ひます。引き続き教職員一同力を合わせて教育活動に取り組んでいきますので、本年も皆様方のご協力ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。